

## 半年で激変させる

中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）はこのほど、津市の三洋陸送を100%子会社化する契約を締結した。三洋陸送の社名は変更せず、中田氏が代表取締役就任、息子の一輝氏が専務取締役を務める。

創業59年の三洋陸送は、東海3県を中心にキャリアカー事業や自動車部品輸送を行っている。同社のグループ入りにより、中田商事はキャ

リアカー事業に参入することとなり、新たな展開が見込まれる。

「規模があまり大きくなく、無借金で適正利益を出している。伊賀からも通える距離」として子会社化を決め、一輝氏に現場を任せ、中田氏。自社で十数年かけて取り組んできた24年問題解決への実績をもとに、事業存続に向けた改革を進めていく考えで、「社歴が長く、抵抗勢力

もあるだろう。しかし、改革するにはベストなタイミング」と意欲的だ。

「半年で激変させる」。強い自信を言葉に込める中田氏は、「全車にデジタルを導入し労務を管理、精度の高い時間管理と人事考課を取り入れ、ドライバーの完全時間給制を実現させる」と話す。

またGマークや働きやすい職場ーなど、各種認証取得のほかに、ロボット点呼の導入を進め、さらに2年に6台のペースで車両の入れ替えを実行していくことも明言している。

「ドライバーの意識、抵抗感が最大のハードル」として、全社員を集めての説明会の場も設けた。「3月から時間給制に」という明確な目標を設定し、経営基盤の確立を図っていく。同社のさらなる発展に今後注目したい。

（富田 香）